

林木育種センター

だより

No.36

独立行政法人 林木育種センター



2004・6

林木育種センターホームページ URL : <http://ftbc.job.affrc.go.jp/> E-mail : ikusyu@nftbc.affrc.go.jp

関西育種場新庁舎が完成



関西育種場の新庁舎(岡山県勝田郡勝央町)

平成 16 年 3 月 26 日に関西育種場の新庁舎が完成し、去る 5 月 20 日に落成式を行いました。

旧庁舎は、築後 40 年以上が経過し、一部雨漏りがするなど老朽化していたことから、関係者のご尽力により昨春、新庁舎の建築が決定し工事が進められてきました。新庁舎は旧庁舎と同じ敷地に建てられ、構造は木造平屋建て、メインの事務室は大断面集成材を使用したラーメン構造、また、事務室や会議室、ロビーを兼ねた展示コーナー等ではいろいろな樹種の国産材が内装に使われています。広さは約 480m²となっています。

新庁舎は4点に配慮して設計・建築

新庁舎は次の4点に配慮して設計・建築されています。

1．国産材利用促進

構造材などにはスギ、ヒノキ、マツ等を、壁材には、スギ、ヒノキの間伐材、小径木を利用した集成材を合計約113m³使用しています。この他にも床材にはヒノキ、ブナ、ナラを使用し、新庁舎全体が「国産材利用促進の展示館」ともいえるものとなりました。



事務室

2．省エネ対策

ペアガラスをはめた大型木製サッシを使用しています。このペアガラスは、遮音効果や断熱効果が普通の1枚ガラスよりも高く、エネルギーの節約につながるものと期待されます。

新庁舎の屋根に設置した太陽光発電設備は最大5kwの発電能力を持ちます。現在の発電電力とこれまでの積算発電電力量は事務室にある表示板で随時確認することができます。



太陽光発電設備と木製サッシ

3．バリアフリー

新庁舎は玄関をはじめ段差を極力少なくし、また、車椅子を使用されている方にも使いやすい化粧室を設置しました。シックハウス対策にも配慮し、新築の建物特有のにおいはほとんどしません。このことでより多くの方々に当施設をご利用いただけます。



段差のない玄関

4．景観に配慮

周囲の景観にも調和するよう配慮しました。新庁舎の外観は、屋根がモスグリーン、外壁がオークとライトグレーを基調にした落ち着いた色調となっております。



落ち着いた色調の庁舎

新庁舎落成式

落成式には、地元勝央町長、岡山県農林水産部長（治山課長代理出席）、岡山県林業試験場長ら来賓30名の他、会場職員が出席して行われました。

林木育種センター片寄理事より挨拶、勝央町長と岡山県農林水産部長より祝辞をいただいた後、テープカット、会場が出席して平成14年に品種登録されたヒノキ天然シボ品種「福俵」を記念植樹し、新庁舎の完成を祝いました。



テープカット

(左より林木育種センター理事、岡山県農林水産部治山課長、勝央町長、森林総合研究所関西支所長、関西育種場長)

また、新庁舎の設計・工事を行った株式会社エイトコンサルタント並びに安東・松本・森安経常建設共同企業体に対して感謝状を贈呈しました。

そして、来賓の方々を庁舎に案内しました。その際には、特にロビーの中央に配置されたスギの磨き丸太と、事務室で採用されたスギの大断面集成材を利用したラーメン構造に関心を持たれたようです。

このたびの庁舎新築を機会に、関西育種基本区における林木育種に関する情報や技術の発信基地にしていこうと職員一同、心も新たにしたところです。



施設案内で関心の高かった玄関ロビー

四国増殖保存園の事務所が新築、移転

関西育種場四国増殖保存園の事務所等敷地については、従前より四国森林管理局から売払いのため返地要請を受けていましたが、平成15年に国の機能補償により事務所及び保存樹木の一部を移転することで協議が整い、事務所と実験室等の施設敷地約2,300m²を返地するとともに新しい事務所を建設することとなりました。

旧事務所も、研究実験室を平成6年末に改築したものでしたので、今回の移転は四国支場の旧庁舎から2度目の移転となります。

新しい事務所は、増殖保存園内の別の場所に

建てられました。

木造平屋建(約120m²)で外壁、内壁、床にヒノキ板が使われるなど、国産材がふんだんに使用されています。

また、低地であることから、浸水防止のため床を高くしてあります。スロープを設けたので、車椅子の方でも入れるようになっています。

建坪は以前の庁舎より小さくなったものの、職員はヒノキの事務室の中で快適に業務を進めています。



事務室



内壁は無節のヒノキ材を使用



新しい事務所

独立行政法人林木育種センター平成16年度計画のポイント

第1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

運営費交付金を充当して行う事業について、人件費を除き、前年度比1%の経費節減を行うとともに、庶務的業務を中心に事務処理方法の改善に努める。

また、国有林野事業、都道府県、大学、他の独立行政法人等との連携を図る。

第2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 林木の育種事業

成長等の優れた品種及びマツノザイセンチュウ抵抗性品種について、概ね45品種を目標として新品種の開発を行うとともに、精英樹等の第二世代品種の開発を目的とした人工交雑や検定等を進める。

また、国内の林木遺伝資源について、概ね1,400点を探索・収集するとともに、成体及び種子・花粉での保存、特性評価、保存情報等のホームページによる情報提供及び配布を進める。熱帯・亜熱帯樹種等の海外の林木遺伝資源については、20点を目標として探索・収集する。

2 種苗の生産及び配布

検定林調査(55箇所程度)を行うとともに、都道府県等に対して「推奨品種特性表」の提供を行う。

また、都道府県等に対し種苗の配布要望を照会し、計画的な種苗の生産及び配布を行うとともに、都道府県を対象に生産・配布された種苗や講習・指導等についてのアンケート調査を行う。

3 調査及び研究

新品種等の開発に必要な系統間差異や遺伝様式等を解明するための調査・研究及び検定・評価手法、育種年限の短縮を図るための遺伝子組換え関連技術、効率的な採種園の造成・管理技術等の林木育種技術を開発するための調査・研究を進める。

また、林木遺伝資源の収集・保存等に必要

な林木遺伝資源の収集技術、分類・同定技術、保存技術及び特性評価技術を開発するための調査・研究を進める。

さらに、熱帯・亜熱帯地域等における林木育種技術協力のために必要なクローン化技術、若齢採種(穂)園の整枝・剪定技術等を開発するための調査・研究を進める。

4 講習及び指導

都道府県等に対する林木育種技術についての指導、講習会の開催を行うとともに、海外研修員に対する技術指導や専門家派遣等を行う。

5 行政、学会等への協力

国、都道府県等からの要請に応じて、各種委員会等へ林木育種の専門家として参画するとともに、日本林学会の機関誌の編集等に協力する。

6 成果の広報・普及の推進

開発した新品種等の成果について、専門誌や一般新聞等への情報提供、ホームページや広報誌への掲載及びパンフレットの作成・配布等に取り組む。

第3 予算、収支計画及び資金計画

平成16年度予算 (単位:百万円)

収 入		支 出	
運営費交付金	2,010	人件費	1,276
		業務経費	378
		うち林木新品種開発経費	328
		うち林木遺伝資源経費	30
		うち海外技術協力経費	21
施設整備費補助金	132	一般管理費	357
受託収入	19	施設整備費	132
諸収入	1	受託経費	19
計	2,162	計	2,162

(注) 四捨五入の関係で計が一致しないところがある。

第4 短期借入金の限度額

2億円

第5 その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項

施設整備費補助金132百万円の交付を受けて、東北育種場の庁舎の建て替えを行う。

世界の森林は、熱帯林を中心に減少・劣化が進んでいます。一方で世界の木材消費量は長期的に増加傾向にありFAOの木材消費見通しでは2000年から2010年の10年間で15%増加すると見込まれています。こうした状況の中で「持続可能な森林経営」の推進に向けて国際社会が一体となって取り組むことの重要性が認識されています。

ところで、日本は多くの木材や木材を原料にした製品を輸入に頼っており、日本で消費される製材用材の7割、パルプ・チップ用材の9割、ほぼすべての合板用材が外材によってまかなわれています。2001年の実績では、113カ国の国々から生産された木材が輸入されています。

日本は国際社会の一員として、また大量の木材を消費する国として世界の「持続可能な森林経営」に向けた取り組みを支援しています。熱帯林育種研究室は、この取り組みを支えることを目的に設置されており、熱帯・亜熱帯樹種の育種についての研究を行い、開発された林木育種に関する技術は海外に移転します。

熱帯林育種研究室のある西表熱帯林育種技術園は北緯約24度の亜熱帯に位置するため多くの熱帯・亜熱帯性の植物が生育できる環境にあり、熱帯・亜熱帯林の主要な造林樹種を含む約100樹種が植栽されています。熱帯林育種研究室では、このような熱帯・亜熱帯性の樹種の生育に適した環境を生かして、熱帯・亜熱帯樹種の増殖に関する研究を行っています。

増殖は大きく分けて自然受粉や人工交配による有性繁殖による方法と、さし木、つぎ木、とり木および組織培養などの無性繁殖による方法があります。これらの増殖方法は遺伝形質の再現性、増殖率、増殖にかかる時間および確実性などにそれぞれ長所と短所があります。育種を進める過程や育成した品種を普及する際には少なくとも1つの増殖方法が確立されていなければなりません、より多くの増殖方法が確立されていることで育種を効果的に進めることができます。

有性繁殖に関する研究では、ユーカリ属1種とアカシア属1種について整枝・剪定を行い着花結実状況を調査しています。また着花位置や着花時

期を詳細に調査し、採種木への樹型誘導に適した整枝・剪定の方法や時期が明らかになりつつあります。これらの調査結果から、自然樹型に比べて低い位置で安定して着花させる技術が確立すれば、種子採取や人工交配が容易になります。



写真1：整枝・剪定により採種木に樹型誘導しているアカシアマンギウム

無性繁殖ではユーカリ属2種とアカシア属2種についてさし木、つぎ木およびとり木を行っており各樹種に適した増殖法や、気温と増殖性の関連などについて調査しています。つぎ木やとり木では増殖に適した気温が明らかになりつつあります。さし木についても引き続き調査を行っています。また無性繁殖試験を行っている樹種の内、ユーカリ属1種とアカシア属1種については採種木の仕立て方とさし穂の生産量についても調査しています。



写真2：活着したユーカリユーロフィラのつぎ木苗

これらの研究によって得られた情報は、海外林木育種情報、多数の一般来園者、海外から来園する研修生や海外で技術指導を行う日本人などを通じて世界に向けて発信しています。これらの活動が少しでも世界の森林・林業に貢献できるように研究を進めています。

(海外協力部 西表熱帯林育種技術園 千吉良 治)

人の動き

氏 名	新 職 名	旧 職 名
<退 職>		
【平成16年3月31日付発令】		
黒木 亮	退 職	海外協力部長
西原 賢吾	退 職	関西育種場長
西岡 利忠	定年退職	北海道育種場 育種技術専門役 (育種技術係長事務取扱)
植木 忠二	定年退職	主任研究員(関西育種場)
森 俊人	定年退職	九州育種場 育種技術専門役
<転 出>		
【平成16年4月1日付発令】		
相模 正芳	緑資源機構出向(中部森林整備局長)	企画総務部長
増田巳喜男	林野庁出向(国有林野部 経営企画課付 森林整備部計画課併任)	九州育種場長
小林 貞成	林野庁出向(林政部 経営課 構造改善企画班 計画係長)	監査室 監査係長
三好 誠司	林野庁出向(国有林野部 業務課課長補佐 (国有林野総合利用推進班担当))	企画総務部 総務課長
上野 真一	林野庁出向(林政部 経営課 経営育成班 経営指導係長)	遺伝資源部 保存評価課 特性評価研究室
幸地 宏	林野庁出向(林政部 企画課 統計調査班 統計係長)	海外協力部 海外協力課 海外企画係長
山尾 純一	北海道森林管理局出向 (計画部 指導普及課 技術係長)	遺伝資源部 探索収集課 遺伝資源管理係長
門脇 幸司	四国森林管理局出向 (高知中部森林管理署 業務課 経営係長)	関西育種場 遺伝資源管理課 四国増殖保存園管理係長
藤原 昭博	九州森林管理局出向(計画部 指導普及課 自然 再生指導官(西表森林環境保全ふれあいセンター))	遺伝資源部 遺伝資源管理主幹
佐藤 尚	森林総合研究所出向 (総務部 職員課 共済組合事業係長)	企画総務部 会計課 会計係長
【平成16年5月15日付発令】		
杉野 恵宣	九州森林管理局出向(佐賀森林管理署次長)	関西育種場 遺伝資源管理課長
<転 入 ・ 内部異動>		
【平成16年4月1日付発令】		
[林木育種センター 本所]		
渡辺 政一	企画総務部長	林野庁 国有林野部 管理課 監査官(兼経営企画課)
伊藤 文彦	海外協力部長	関東森林管理局 総務部長
千葉 一美	監査室 監査係	北海道育種場 連絡調整課 庶務係
中島久美子	企画総務部 企画調整課 企画係	九州育種場 連絡調整課 連絡 調整係
今野 敏彦	企画総務部 企画調整課 企画係 (収集管理係併任解除)	東北育種場 遺伝資源管理課 増殖保存係(収集管理係併任)
園部 近守	企画総務部 企画調整課 調整係長	林野庁 森林整備部 森林保全課 保護指導班 防除係長
今井 道博	企画総務部 企画調整課 企画調査役 (調整係長事務取扱解除)	企画総務部 企画調整課 企画調査役 (調整係長事務取扱)

氏名	新職名	旧職名
桃木 康雄	企画総務部 総務課長	北見分局 総務部 企画官
村川 愛美	企画総務部 総務課 総務係	新規採用
佐々木洋一	企画総務部 会計課 会計係長	企画総務部 会計課 経理係長
藤田 彰宏	企画総務部 会計課 経理係長	北海道育種場 連絡調整課 庶務係長
柏木 学	育種部 育種課 育種技術係長	九州育種場 育種課 育種技術係長
小川謙太郎	育種部 育種課 育種技術係	新規採用
高倉 康造	育種部 指導課 原種係長	北海道育種場 遺伝資源管理課 増殖保存係長
竹田 宣明	育種部 指導課 技術指導係長	関西育種場 遺伝資源管理課 増殖保存係
加藤 義明	育種部 指導課長 (長野増殖保存園管理係長事務取扱解除)	育種部 指導課長 (長野増殖保存園管理係長事務取扱)
千葉 信隆	育種部 指導課 長野増殖保存園管理係長	育種部 指導課 技術指導係
星 正司	遺伝資源部 探索収集課 遺伝資源管理係長	東京分局 総務部 管理課 課長補佐(職員厚生室)
岩泉 正和	遺伝資源部 保存評価課 特性評価研究室	新規採用
下村 康広	遺伝資源部 遺伝資源管理主幹	関東森林管理局 下越森林管理署 流域管理調整官
小倉 茂	海外協力部 海外協力課 海外企画係長	帯広分局 十勝東部森林管理署 業務第一課長
宮下 祐子	海外協力部 海外協力課 海外技術係	関西育種場 遺伝資源管理課 収集管理係
田中 綾子	海外協力部 海外協力課 海外技術係	新規採用
千吉良 治	海外協力部 西表熱帯林育種技術園 熱帯林育種研究室長	主任研究員(海外協力部)
[北海道育種場]		
坂上 勉	連絡調整課 庶務係長	森林総合研究所 北海道支所 庶務課 庶務係長
辻山 善洋	連絡調整課 庶務係	海外協力部 海外協力課 海外技術係
佐藤亜樹彦	育種課 育種技術係長	育種課 育種技術係
阿部 正信	遺伝資源管理課 増殖保存係長	育種部 指導課 原種係長
[東北育種場]		
佐々木清和	連絡調整課 庶務係長	森林総合研究所 総務部 職員課 管理係長
古本 良	遺伝資源管理課 収集管理係	海外協力部 海外協力課 海外技術係
齋藤榮五郎	遺伝資源管理課 増殖保存係主任 (収集管理係併任解除)	遺伝資源管理課 増殖保存係主任 (収集管理係併任)
海老名雄次	遺伝資源管理課 奥羽増殖保存園管理係	育種部 育種課 育種技術係
[関西育種場]		
大塚 次郎	遺伝資源管理課 収集管理係長	企画総務部 企画調整課 企画係
河合 貴之	遺伝資源管理課 増殖保存係	企画総務部 総務課 総務係
中邑 敏雄	遺伝資源管理課 四国増殖保存園管理係長	四国森林管理局 安芸森林管理署 総務課 経理第一係長
[九州育種場]		
村山 孝幸	連絡調整課 連絡調整係	東北育種場 連絡調整課 庶務係
福田 友之	育種課 育種技術係	企画総務部 企画調整課 企画係
植田 守	育種技術専門役	育種部 育種課 育種技術係長
【平成16年5月15日付発令】		
上澤上静雄	関西育種場 遺伝資源管理課長	林野庁 森林整備部 計画課付